

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000189		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームあかし衣川		
所在地	兵庫県明石市田町2-1-17		
自己評価作成日	令和4年11月4日	評価結果市町村受理日	令和5年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2-104		
訪問調査日	令和4年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人おひとりのできることを大切に、その方の望まれる生活や地域とつながりのある生活を送っていただいています。季節を感じ楽しんでいただける行事や外出にも力を入れており、近年のコロナ禍においては生活のいろいろな面で大きな制限がありましたが、去る10月にはまんてん秋祭りと明石公園菊花展覧会への外出を再開、3年ぶりとなった地元神社のお祭り神輿も以前のように事業所に立ち寄り、利用者の歓声を誘いました。また、地域の会合に積極的に参加することにより、近隣のみなさまに認知症の理解を深めていただき、介護に関するご相談はいつでも承る「頼りになるまんてん堂」活動をしており、地域の資源としての役割を果たしています。□

地域との交流や外出行事を積極的に行い、単調で閉じられた生活にならないよう注力している。桜、紫陽花、菊花展などの観賞に出かけたり、秋祭りにはお神輿が立ち寄ってくれた。散歩を希望されればその日のうちに出かける。また仏壇のお花を買いに行かれる方もいる。住民に対しても介護のこと、認知症のことなど積極的に情報発信して、「介護相談所」の幟を立て、地域貢献を目指している。家族とのコミュニケーションを大切に、面会の他、毎月入居者の様子を知らせる手紙に写真を添えて送り喜ばれている。管理者は職員との密なコミュニケーションを心がけ、働きやすい職場が、寄り添ったケアにつながっている。コロナ禍で制約はあるが、事業所内でお祭りを催し、皆で出店メニューを作り、着物に折り紙で作った花を飾り、楽しい時間を過ごした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まんてん堂共通の理念に基づき事業所の運営方針を定め、職員に周知している。定期的な内部研修や外部研修(ソラスクール)を行うことにより、実践につなげている。	まんてん堂の「自分の親に受けさせたい…」に始まる3箇条の理念と、ソラストグループの新企業理念を記した文書を職員に配布して共有し、研修等で理念の浸透と実践を図っている。今年度は当事業所独自の理念づくりを職員と共に進めている所である。	事業所独自の理念づくりは夏に職員のコロナ感染が発生したことから作業を一時休止していると伺いました。今後体制を整えて取組みを再開されることを期待します。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域住民として地域の行事(春の町内一斉清掃、ゾーン会議、地元神社の祭り、コミュニティセンター祭り等)に参加している。地域のボランティアグループ(音楽・朗読・パフォーマンスほか)と定期的な交流を持っていたが、コロナ禍においては自粛している。	各種の行事やお祭りに参加し、カフェを開催したり、ボランティアを受入れる等して地域との交流は深まっていた。感染防止の為直接的交流を控えてきたが、今秋からお神輿が立寄ってくれたり、再開した地域のサロンで認知症の講演を行う等少しずつ復活している。	コロナ禍が収束した暁には、以前から行っている介護や認知症の情報発信など事業所の特性を活かした地域への貢献活動を一層進めていかれることを期待します。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ゾーン会議において認知症や介護に関わる情報を提供し、年中無休でご相談を承っていることを発信している。門前には「介護相談受付中」ののぼり旗を立て、気軽にお問い合わせしていただけるよう努めている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催していたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から現在は文書での交換のみとなっている。利用者の家族・町内会長・民生児童委員・知見を有する方(地域包括支援センター職員・医師・看護師・薬剤師)から様々なご意見ご要望をいただいている。	運営推進会議は併設の小規模多機能と共同で必要な出席メンバーを揃え、多くの家族の出席も得て隔月開催していた。感染防止の為、今は文書でのやりとりのみとなり、メンバーからは文書でコメントが寄せられる。議事録は全家族と医師・看護師等にも送っている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険法をはじめとする関係法令に対し、法令順守の観点から不明な点は常に確認を行いながら適切な事業所運営に務めている。3か月に1回開催されるグループホーム・小規模多機能型事業所連絡会に参加し、意見交換や情報確認を行っている。	市役所とは必要に応じて連絡・報告を行っている。市庁舎にあり市職員が出向している地域包括支援センターとは運営推進会議の出席メンバーとなるほか、地域住民の同居相談等の紹介や研修・イベント等の情報提供を受けるなど、日常的に連携を取っている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを運営規定で宣言しており、入社時新人研修はもとより、研修部会による定期的な研修会や外部研修(ソラスクール)、身体拘束適正化検討委員会にて身体拘束を防ぐための検討会議を行っている。	年に1回研修と3か月に1回身体拘束適正化検討委員会を開催して拘束のないケアを図っている。安全のためユニット入口は施錠しているが、出たい方が居れば職員が付添って出る。家族の了解を得て4人の方にセンサーマットを使い定期的に見直している。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や高齢者虐待防止研修を年に2回行っている。不適切ケアに対してお互いに注意し合い、管理者に報告・相談しやすい環境作りや個別面談を行っている。利用者や職員に身体面・精神面で変化がないか日々の生活の中で注意深く観察している。各所に見守り用カメラを設置し、安全確保にも努めている。	年に2回研修を行う。不適切なケアがあった時は個別に指導し一般教材の形で会議等で共有している。全家族の同意を得てカメラを共用部と居室に設置し事故原因究明等に役立っている。職員がセルフ方式でストレスをチェックし産業医面談につなぐ仕組みもある。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時新人研修で権利擁護、成年後見人制度について学ぶ機会を設けている。年間研修予定の中に権利擁護、成年後見人制度の研修を設け、見識を広める努力をしている。	入居してから親族が弁護士の成年後見人を付けた方が1人居る。権利擁護の制度に関する内部研修を集合方式で行っているが、今後は専門家による研修も必要と考えている。パンフレットや資料は常備しているが、利用者等からの相談はまだない。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前の面談時、申込時、契約時に重要事項を説明するとともに、疑問や不明点については質問を受けられるようにし、理解・納得いただいた上で契約していただいている。	契約時は重要事項説明書・契約書等を全文読みあげ2～3時間かけて丁寧に説明している。急変時や終末期における延命医療についての意思確認もする。長期の入院や医療措置が常時必要になった場合など退去の条件も説明し、納得頂いて契約している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。運営推進会議の案内を出す時は用紙に意見の記入および返送を働きかけており、家族来所時や電話連絡時には日頃の様子を伝え、利用者や家族のご意向・ご要望なども合わせてお伺いしている。	家族の意見や要望は運営推進会議でやりとりする文書や電話で、或いは来所時に伺っているが、現在は面会中止等により来所の機会が減っている。今年は家族の提案に基づき、お風呂を拒否する方に家族から説得の電話をかけてもらい入浴を実現出来た。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアラウンドコミュニケーションを毎日行っている。利用者についての報告を始めとし、職員が何についてどう思っているのかタイムリーな意見や要望を述べてもらっている。評価面談を行い、職員の小さな気づきや努力を拾い上げ、業務に反映させている。	職員からの意見は会議や部会で出されたり、管理者が個人面談やフロア巡回時などに聞き取っている。職員の意見に基づき、食事介助のスプーンをシリコン製にしたら食べられるようになったり、靴下のゴムを一部切ったら自分ではけるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従業員評価制度を設けており、意欲を持って業務にあたるようインセンティブを提供している。個々の能力・特性を考慮した上で、求められる項目と目標を持って向上心につながるような環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数や介護経験に応じ、受講が適切と認められる該当者には様々な外部研修に参加してもらっている。また、全職員に年間研修予定を立て、働きながらトレーニングを積み、スキルアップにつなげている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる明石市内の同業者の連絡会(グループホーム連絡協議会、介護サービス事業者連絡会)や研修会に参加し、意見・情報交換などを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者と家族から現在の生活状況や認知症になる前の暮らしを詳しくヒヤリングし、情報をできるだけ多く収集し共有、利用者と強固な関係性を構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約締結前に行うご家族からのヒアリングおよび面談を通じて家族のニーズを詳しく聞き、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それまでの生活を急激に変えることは極力避け、今までの習慣等が継続できるよう家族の協力のもと環境づくりを行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が主体となる支援を心がけ、その能力に応じて日常的な家事や得意とされることを活用した役割を担っていただくようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には「職員とともに介護する」という意識を持っていただけるよう協力をお願いしている。都合がつく限りできるだけ来訪や電話をしていただけるよう働きかけている。特に利用開始から間もない時期は、互いに密に連絡を取り合っている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人などの来訪はコロナ禍においては制限されているが、電話や手紙・写真のやり取りなどは積極的に奨励し、必要な援助を行っている。	毎月職員が様子を知らせる手紙と本人の写真を送り喜ばれている。感染拡大時は近所の馴染みの美容院から訪問理美容に来てもらった。面会出来ない幼いお孫さんを連れて家族や友人のグループには離れた駐車場や庭から居室に声をかけ交流してもらった。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個性や性格を把握し、良い関係が築けるよう職員が介入している。テーブル席を代えたり、レクリエーションでゲーム等を通じてコミュニケーションを取ってもらっている。周りとの交流を好まない方には、無理強いをせずに個別に関わりを持つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も本人・家族・ケアマネージャーなどの関係者に定期的に連絡を取るようになり、支援できる体制づくりを心がけている。利用時の介護記録等の書類は、ご利用の終了日から5年間保管・管理している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定という観点から利用者の思いや意見を引き出すよう努め、困難な場合はいくつかの選択肢を用意してその中から選んでいただけよう関わり、日々の小さな選択の積み重ねが自己肯定感につながるよう心がけている。	入居時に、本人、家族から思いや意向を聞いている。日々の生活の中で常に気持ちを確認し、新しい気づきがあればカンファレンスで話し合い、介護計画書に反映させている。気持ちを伝えにくい方には、質問を工夫したり、表情態度で察知するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談等でこれまでの生活歴・生活状況をお聞きしている。その方らしい生活を送っていただけるよう、入居後も毎日の会話を通じて詳細を把握し、実現化するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子や体調の変化を観察し記録している。申し送りや連絡ノートによって職員間で情報を共有し、また、医師・看護師とも連携を取っている。有する力の維持のために多角的な視点から定期的な関わりを持つように努力している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは個別に定期的に実施し、月2回ケアカンファレンスを開催。課題とケアのあり方について、それぞれの意見やアイデアを反映させた現状に即した介護計画を作成している。また、職員の小さな気づきを大切にし、意見が言いやすい雰囲気づくりを心がけている。	介護計画は、月2回のカンファレンスを受けて変化がなければ2~3ヶ月でモニタリングを行い、6ヶ月で見直している。本人、家族の希望、要望を聞き、できることは反映させている。家族だけでなく、本人にも説明しサインをもらう方もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことも介護記録に残し、職員は出勤時に必ず記録に目を通している。様子観察継続の中での変化には特に注意し、ケアの見直しや工夫が迅速に行えるよう情報のアップデートと共有を実践している。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズを尊重し、臨機応変に対応している。家族付き添いの通院時、利用者の状況や家族の介護力によっては車送迎を行ったり、郵便物の転送、物品の立替払い等柔軟にかつ多機能に対応している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域周辺の情報を常に収集し、かかりつけの医療機関・行きつけの美容院やスーパー・近隣の公園や海辺、寺院等、多様な地域資源の活用を図っている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、事業所の提携医療機関のほか、これまでのかかりつけ医を利用していただくことも可能としている。利用者や家族の希望する医療機関を受診することを前提としている。	月2回往診している協力医を皆さんがかかりつけ医に選んでいる。看護師も月2回訪問があり連携体制が取れている。他科受診は家族が対応しており、介護タクシーや車いすの手配等を支援している。歯科医師、歯科衛生士の訪問もあり口腔ケアの指導を受けている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は月2回事業所を訪問し、利用者の健康管理、健康チェックを行っている。利用者の急な健康不安に関しては電話相談(24時間365日)ができ、必要に応じて医師と連携している。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内の地域連携室との情報交換や相談を細めに行い、利用者の状態の把握に努めている。また、退院前に病院関係者とカンファレンスを行うとともに、それに基づいたミーティングを施設職員間で実施、スムーズな退院支援を行っている。	入院時は地域連携室に患者情報をFAXで送り、退院前には“ズーム”でカンファレンスを行っている。食事の形態が変わる時には嚥下時のギャッジアップの角度を、褥瘡予防では枕の置き方を写真で提供してもらい、退院後安心して生活できるように体制を整えている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」をもとに、事業所としてできることとできないことを十分に説明し、往診医や訪問看護師、家族と連携をとりながら終末期の方向性や選択を支援している。家族や職員は訪問看護師によるターミナル研修を受けることができ、望む終末期を迎えられるよう取り組んでいる。	状態の変化があれば医師から家族に説明をし、何処でどう過ごすのが良いか話し合っている。看取りに入るとケアの方法や心構えをカンファレンスで何度も話し合い、居室への訪問回数を増やして、一人ではない安心感を提供している。家族の泊り込みもできる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備えて「緊急時対応マニュアル」を策定している。また、かかりつけ医や訪問看護師に連絡し、相談や臨時往診などの対応ができる体制ができている。緊急時に落ち着いて行動できるようにカンファレンスや内部研修を行っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「自然災害業務継続計画」を策定し、非常災害時に備えている。避難訓練を年に2回実施(火災避難訓練・水害避難訓練/日中・夜間想定各1回)。	避難訓練は入居者と一緒に行っている。地震対策として背の高い家具は置かず、テレビに滑り止めを敷いている。網入りのガラスで、飛散を予防し、津波についても話し合っている。運営推進会議で報告し、理解を得ている。備蓄品は3日分を2階に保管している。	連絡網を作成されていますが、災害時は連絡や交通手段の障害が想定されます。そのような時に職員がどう動けばよいか話し合っておかれては如何でしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者にはお客様であるとともに人生の先輩であるという畏敬の念を持って接し、常にいい言葉づかいをするよう指導している。言葉の乱れや声かけについて職員同士が指摘し合える環境づくりに努めている。	接遇研修を行っている。親しみのある言葉が馴れ馴れしくならないように、また難聴の方への言葉かけがきつい口調になっていないか、家族が聞いたらどう感じるかを考えている。入室時には必ず声を掛け、掃除やシーツ交換は一緒に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望やニーズを把握するために積極的にコミュニケーションを図っている。要望を聞く時には多様な選択肢を用意し、自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴・外出・就寝等、施設の都合で決めるのではなく、利用者のペースに合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は季節に合わせたものをご用意いただくよう家族に依頼している。利用者には今日着る服を選んでいただいたり、外出の際、特に女性利用者にはおしゃれ着の着用や化粧品等好みのものを用意して支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒に行っている。食べ物にアレルギーがある場合は代替メニューを用意している。食事レクリエーションでは希望のメニューや季節を感じていただける献立にし、できる限り利用者が主導になって調理する日を設けている。朝はパンか米飯、嚥下状態により刻み食・ソフト食・ミキサー食を選択できる。	月に1回の食事レクリエーションでは、希望を募り、季節メニューでは巻きずし、衣川まつりでは屋台メニューを職員と一緒に腕を振っている。調理ができない方も匂いや、雰囲気を楽しんでいる。駐車場でハンバーガーランチは好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居面談時の食事アセスメントで食生活の習慣を把握している。食事量・水分量はその都度記録し、少い場合は十分な量の摂取を促したり、個別に補食・補水を代替品でまかなったりしている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き介助を行い、自立の方には声かけのみで自立支援に取り組んでいる。月1回の歯科往診で歯のクリーニングを実施、歯科医師から往診のたびに助言をいただき実践している。就寝時は義歯洗浄剤で保清を行っている。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔や排泄量などのアセスメントを行い、個々の能力に応じた関わりを行っている。羞恥心を考え、自分でできることはしていただけるよう声かけを工夫している。その方にあった排泄用品を取り入れ、利用者の尊厳や自信を維持できるよう働きかけている。定期的な声かけと誘導で、トイレ排泄に成功している方も多数おられる。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うことでパッドを汚すことが少なくなっている。自分でトイレに行く方もおり、トイレのドアには鈴をつけて入ったのが判るようにしている。排泄後にトイレ内の鈴を鳴らしてもらい、パッド交換を手伝うなど支援をしている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などの運動、乳製品の摂取、水分不足の場合は利用者の好みに合わせた飲料の提供を行いできるだけ自然排便をめざしている。人によって3日以上排便がない場合は、かかりつけ医の指示の下、下剤による排便コントロールを行っている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯や入浴時間等できるだけ希望に添うよう調整している。拒否がある場合は無理強いせずに時間や日程、介助者、場合によっては清拭と着替えに変更する等選択に幅を持たせている。毎年季節湯(菖蒲湯・ゆず湯)を行っている。	週に2回は入浴している。入浴のスケジュールは一応決めているが、本人の希望に合わせて随時変更している。入浴を好まない方には声かけを工夫している。2人介助や、シャワーで対応をしたり、同性介助を望まれる方には職員のシフトを工夫している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、休息の希望があれば速やかに居室に案内し休息していただいている。睡眠アセスメントにより習慣を把握し、個々に応じた支援をしている。夜間しっかりお休みになれるよう、日中の活動にも力を入れる努力をしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は間違いがないよう二人確認で行っている。薬剤情報を個人別にまとめ、薬の効用や性質についてすぐに確認できるようにしている。不明な点や服薬に困難が見られた場合は、主治医や提携薬局に気軽に相談することができ、形状変更等にも柔軟に対応してもらっている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意なことを理解し役割を担っていただいている。個別の趣味を把握し、いつでも趣味に取り組んでいただける環境を作っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし衣川

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍や夏の猛暑においては外出に制限がかかり、十分な支援ができなかったが、状況の落ち着きを見て季節の外出は行うことができた(初詣・桜鑑賞・紫陽花鑑賞)。先月10月には恒例であった明石公園菊花展覧会にも行くことができた。	今年初詣、花見、紫陽花や菊花展の観賞など季節の外出行事には入居者が全員参加することができた。近くに社寺、川や海辺の公園があり、散歩を希望されればその日のうちに出かけるようにしている。週に1度、職員と一緒に仏壇の花を買いに行く方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物は基本的に施設の立替払いとしている。希望があれば少額の現金を持つことは可能で、職員付き添いで近隣のスーパーに買い物もしていただける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書く利用者には毎年家族宛年賀状を書いていただいている。電話使用は自由で、かける・取り次ぐなどの支援を行っている。個人携帯をお持ち方は直接家族と連絡を取られている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じていただける飾りつけを利用者と一緒に行っている。食事中はテレビを消し、好きな音楽を流している。感染症対策のため換気を細めに行い、温湿度の調整により快適な生活環境作りを行っている。	腰高窓から光が入り開放感がある。壁のボードに貼られた折り紙や写真を見ておしゃべりを楽しんでいる。室温は入居者に合わせて調整し、濡れタオルをかけて乾燥対策をしている。部屋のドアのすりガラスには好みの和紙や布を張って、自分の部屋の目印としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にソファを設置し、自由に過ごしていただいている。利用者同士並んでテレビを観たり会話されたりしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には季節に応じた絵や家族写真が飾られ、馴染みの家具や仏壇が置かれている。個人のテレビやCDを居室で楽しんでいる方もおられる。温湿度計を設置して快適な空間作りに努めている。	掃き出し窓の外はベランダになっており出入り自由である。法人のレンタルベッドを置き、壁内に作られた収納庫は大きく、ドレッサーや仏壇も入れることができ、部屋を広く使える。職員に好きな芸能人の写真をネットから取り出してもらい飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内にトイレはないのでトイレや浴室の場所をわかりやすく表示している。また、キッチンには自由に出入りしていただいている。安全に配慮した動線の確保や転倒予防の手すり、テーブルの角に緩衝材を設置等、万が一に備えている。		